

Yvan Chiffolleau

著名な音楽学者であるブリジット・マッサンはイヴァン・シフォローについて「偉大なチェロ奏者。節々が際立つ素晴らしい音色を奏でる。」と語っている。

彼の演奏は卓越した技術力、極限的なまでの厳格さと表現可能な限りの情熱を同時に併せ持ち、表面的な技巧とは無縁である。

パリ国立高等音楽院に14歳で入学、アンドレ・ナヴァラに師事し、1973年にその年唯一のプルミエ・プリ(最優秀賞)を満場一致で受賞し卒業。

1974年にはモスクワのチャイコフスキー国際コンクールにおいて17歳で最年少受賞者となって以来、1976年ライプチヒのバッハコンクール準優勝、1980年ブダペストのカザルスコンクール優勝、1981年パリのロストロポーヴィチコンクール準優勝など、数々の有名なコンクールで大賞を獲得する。

1981年から本格的に活動を開始し、主要なフランスおよび海外のオーケストラと演奏活動を展開。新フランス放送フィルハーモニー管弦楽団、パリ管弦楽団、ラムルーコンサート管弦楽団、フランスシンフォニー管弦楽団、海外ではマンチェスターのハレ管弦楽団、ルクセンブル放送管弦楽団、ブラチスラヴァ放送管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ノルウェー室内楽交響楽団、タイペイ国立交響楽団等と共演。

また数々の主要音楽フェスティバル、ブザンソン、プラド、シュリ、シャルトル等にも招待され、メディテラネアンでは故ロストロポーヴィッチ指揮の下ドヴォルジャークの協奏曲を演奏した。

他にアテネ、イスタンブール、チェルトナム、ブルガリアのルセ、ポルトガルのシントラなどへも赴いている。又ロシア、南アフリカ、南アメリカ、アジア諸国も含め、世界各地で演奏旅行も行っている。

1994年10月セミヨン・ビチコフ指揮の下パリ管弦楽団とジャン・ルイ・フロレンツの《Songe de Lluc Alcari (リュック・アルカリの夢)》を作曲家の依頼により初演し、翌年ギュンター・ヘルビック率いるリヨン国立管弦楽団と再演した後1996年CD化。このCDは著名な音楽雑誌《モンド・ド・ラ・ムジーク (音楽の世界)》に於いては「ショック・ド・モンド・ド・ラ・ムジーク」賞を、《ディアパゾン》においては「黄金のディアパゾン」賞(いずれもCDの評価としては各雑誌の最高位)を受賞している。

彼はアンリ・デュティユーの名高い協奏曲《Tout un Monde Lointain (遥かなる遠い世界)》を最初に演奏した者の一人としても知られ、既に20回以上演奏している。

シューマン(協奏曲)、ドビッシィ、ラベル、スュトラウス、ラフマニノフ、ヒンデミット、ハチャトリアン、ヘンゼエ、ヴィエルヌ、アルカン等、多くのCDの録音も行い、アルカンのCDはヌーヴェル・アカデミー・デュ・ディスク・フランセ賞を受賞。

2004年発売のソロのCDでは、コダイの有名なソナタと、並はずれて難しいポール・トルトリエの作品《Mon Cirque (私のサーカス)》を録音。このCDの反応も大きく、フランスの主要音楽雑誌《クラシカ》と《モンド・ド・ラ・ムジーク》に於いても絶賛されている。

1987年以降リヨン国立高等音楽院で正教授として教鞭を取る一方、「プラハの春」コンクール、ミュンヘン国際音楽コンクール、アントニオ・ヤニグロ・国際チェロコンクール等の国際コンクールの審査員も務める。